

2025 総特集版

Price ¥0

元気な共学校

元気な学校 Web版

genkina-gakko.jp



元気な

立正大学付属 立正中学校・高等学校



“行学二道”

「行学の二道」とは、修行と修学の二つの道を指します。

つまり、学校で学んだこと(学)を、実際に行動で示すこと(行)のできる生徒を育てることが、本校の教育目標です。そして、「行学二道」を実践するためには、親切・勇気・感謝の心を持つことが大切だと、立正は考えています。

このため次の3つの事柄を、創立以来重んじてきました。

「明るいあいさつの励行」

「自ら学ぼうとする意欲を持たせる教育」

「一人ひとりの個性と思いやりの心と、自らを律することのできる精神力を持たせる教育」

勉学への積極的な情熱と豊かな人格の育成を目指し、本校はこれからも歩み続けていきます。

Genkina-Kyogakuko



立正大学附属 立正中学校・高等学校

〒143-8557 東京都大田区西馬込1-5-1
tel 03-6303-7683 web <https://www.rissho-hs.ac.jp/>



仲間とともに、社会のために 自分の力を発揮する人を育てる

建学の精神「行学二道」

これからの社会で求められる人は、仲間とともに、社会のために自分の力を発揮する人。

周囲への「親切」を心がけ、「勇気」を持って正しさを貫き、「感謝」の気持ちを欠かさず行動していきける人。立正の建学の精神である日蓮聖人の教え「行学二道」は、知識や経験（学）を、実際に行動（行）で示すことの大切さと、実際の行動の結果を新たな学びに活かすことの大切さを説いています。たくわえた力、アイデアは、行動に移してこそ意味があります。「自分の力を発揮する」を育てることが立正の教育目標です。

手帳を活用した自己管理

入学後、生徒全員に配るスケジュール手帳。使いこなせば、毎日を主体的・効率的に行動できるようになります。

「自分の力を発揮する」を育てるには、そのための目標が必要であり、それに向けてのプランニングが大切です。さらに、自己分析も欠かせません。学習予定や学習の記録を書き込むことにより、自分の学習内容を客観的に振り返ることができ、手帳の記録と自ら立てた目標を学業成績の推移と連動させることで「自分の必要なもの」を考えることができるようになります。自分で計画し、改善する力や先を見通す力が身

につきます。また、コメント欄を担当との相談に使う生徒もいます。面と向かうと意見を言いにくい生徒の理解に役立っているほか、信頼関係の向上にも効果があるようです。コロナ禍ではタブレットで代用しました。

新教育プログラム R-プログラム

立正が目指す「自分の力を発揮する人」。自分の意思で積極的に行動できる人となるために求められる力（Research Report）を、中高の6年間で身につけるために、新しい教育プログラム「R-プログラム」をスタートさせました。毎朝、1時間目の開始前に設けられる20分間のSHR（ショートホームルーム）で、コラム読み・感想まとめ・発表の1分間スピーチを、繰り返し継続的に取り組むことによって、「読む力」「書く力」「伝える力」を養います。週1時間のLHR（ロングホームルーム）では、クラスメートの前でプレゼンテーションやグループディスカッションを実践し、自らの思いを「伝える力」発信する力を養います。このプログラムを受けた子どもたちの感想は、「人前で話すことに慣れた。」「文章を書くことが苦にならなくなった。」「読解問題の文章を読むのが速くなった。」「など、自らの力の向上を実感しているようです。

職業観を身につけるキャリア教育

「R-プログラム」の中に、将来を考えるためのキャリア教育があります。中学1年では、様々な職業の卒業生が自らの仕事について語る「職業講話」、中学2年では、高校での探究学習の前哨戦として行う「職業理解」、中学3年では、興味関心のある仕事を実際に体験する「職場体験」を行い、働くことの意義や責任、やりがいを持つことの大切さを学び、職業観の育成につなげていきます。実際に子どもたちはこれらの取り組みにより、働くことの楽しさや、厳しさを実感したり、両親への感謝の気持ちを抱いたり、英語力の大切さを実感することなど、将来に向けての貴重な経験をしているようです。それぞれの内容は、立正祭での発表でレポート力の養成にも役立っています。



卒業生からのメッセージ

木村 沙貴さん 2016年度卒業 三井不動産レジデンシャルリース株式会社 営業

立正に入学したのは体操部に入りたいからでした。でも、結局はチアリーディング部に。その後、軽音部も兼部。「行学二道」だったかもしれません(笑)。

立正は求めればことん寄り添ってくれ、AO入試のための小論文は先生が何度も見てくださいました。今は9時から20時まで仕事をし、21時から今も続けているチアの練習(昨春はアメリカ世界大会の日本代表チームに選ばれ、7位入賞)。土日は母校のコーチを務め、自分の練習もしています。忙しいですが、自分のためだけに何かをやるのは楽しくありません。いずれは若い世代のために、心と体の健康の環境改善に関わりたいと思っています。

TOPICS

第48回日本アカデミー賞で本校卒業生藤井道人さん(2004年卒)が、「正体」で最優秀監督賞を受賞されました。2020年に監督された「新聞記者」では、最優秀作品賞を受賞されていますが、今回は作品名ではなく「藤井道人」で受賞されました。(本人は作品賞の方がよかったかも知れませんが)本校には、とっても嬉しいニュースとなりました。在校生たちも卒業生の頑張りを誇りに思っています。今後のさらなる活躍を期待しています。

藤井さんは、とっても母校思いの方で、本文中にもある「職業講話」の講師として、ほぼ毎年参加して下さいます。学校としては本当に有難く思っています。